

< 昨年度までの経緯 >

一宮地区公共施設再編整備基本構想【概要版】 より抜粋

1 はじめに

背景及び目的

本市では、公共施設の適正配置と長寿命化を推進しており、豊川市公共施設適正配置計画(令和2年6月改訂)では、リーディング事業の1つとして「一宮エリアの施設再編プロジェクト」を位置付け、一宮地区の公共施設を再編する「(仮称)一宮コミュニティネットワーク構想」の実現に向けて取り組むこととしています。基本構想では、一宮地区の拠点としてふさわしい施設整備のあり方を示すことを目的とします。

2 一宮地区の公共施設の現状と課題

(仮称)一宮コミュニティネットワーク構想の位置付けと概要

一宮地区の公共施設は、以下の様な課題を抱えています。これらの課題解決のため、早期の公共施設再編整備が求められています。

<エリアの現状>

- 施設の老朽化、劣化の進行
- 施設利用率が低く、施設の立地に課題がある

<エリアの課題>

- 維持管理費の増加、施設の在り方検討の必要性
- 適正配置の必要性

一宮地区の公共施設の配置及び概要

一宮地区の公共施設のうち、立地、敷地の確保、セキュリティの確保などの点で制約が大きい小中学校及び保育園等を除いた6施設を再編の対象とします。



一宮地区の公共施設再編に係る住民アンケート

令和2年10月に一宮地区在住の18歳以上の男女1,000人を対象に、一宮地区における公共施設再編の考え方などについてアンケート調査を実施しました。アンケート回収率は50.8%(508票)でした。

◆結果の抜粋

公共施設集約の考え方

「できるだけ機能を集約し、1つの中心的な拠点を整備すべき」(25.9%)が最も多く選択されました

集約対象施設の優先度

- ①「利用者数や利用率の低い施設」(28.7%)
- ②「機能が重複している施設」(19.3%)
- ③「維持や改修に多額の費用がかかる施設」(18.9%)

複合施設がどんな場所になれば良いか

- ①「子どもから高齢者まで様々な世代が集まって交流できる場」(61.2%)
- ②「子育て世代の拠り所となる場」(27.2%)
- ③「高齢者がいきいき活動できる場」(24.6%)

複合施設にどんな機能やサービスがあると良いかについても聞きました

- ◎喫茶店・カフェ・飲食店、◎屋内施設(体育館、ジム・ヨガ教室 など)
- ◎屋外施設(遊歩道、芝生広場 など)、◎交通機関の充実・アクセスしやすい
- ◎買い物(スーパー・ショッピングモール など)
- ◎子どもが遊んで学べる施設(安心して遊べる場所 など)

3 対象敷地

敷地概要

新施設の立地は、利便性、歴史性、都市計画の方向性等を踏まえ、現在の一宮庁舎等の敷地への整備が望ましいと考えられます。

一宮庁舎等敷地の概要と現在の利用状況については、以下のとおりです。



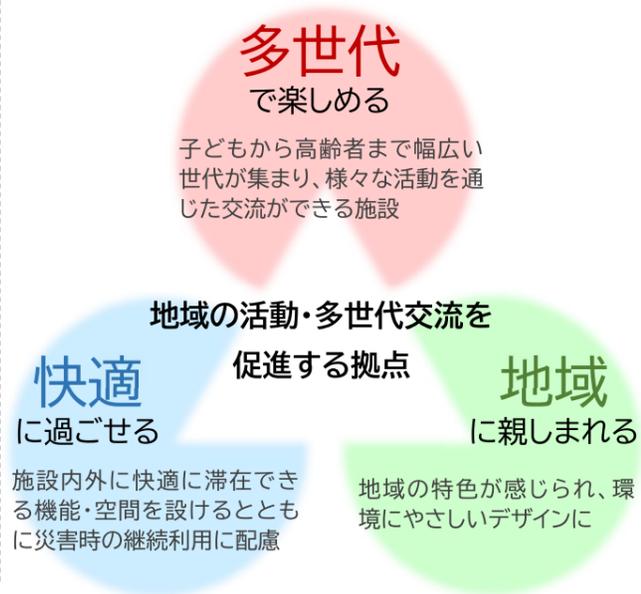
4 新施設の考え方

再編全体の方向性

市全体の公共施設マネジメントの方針に沿った考え方

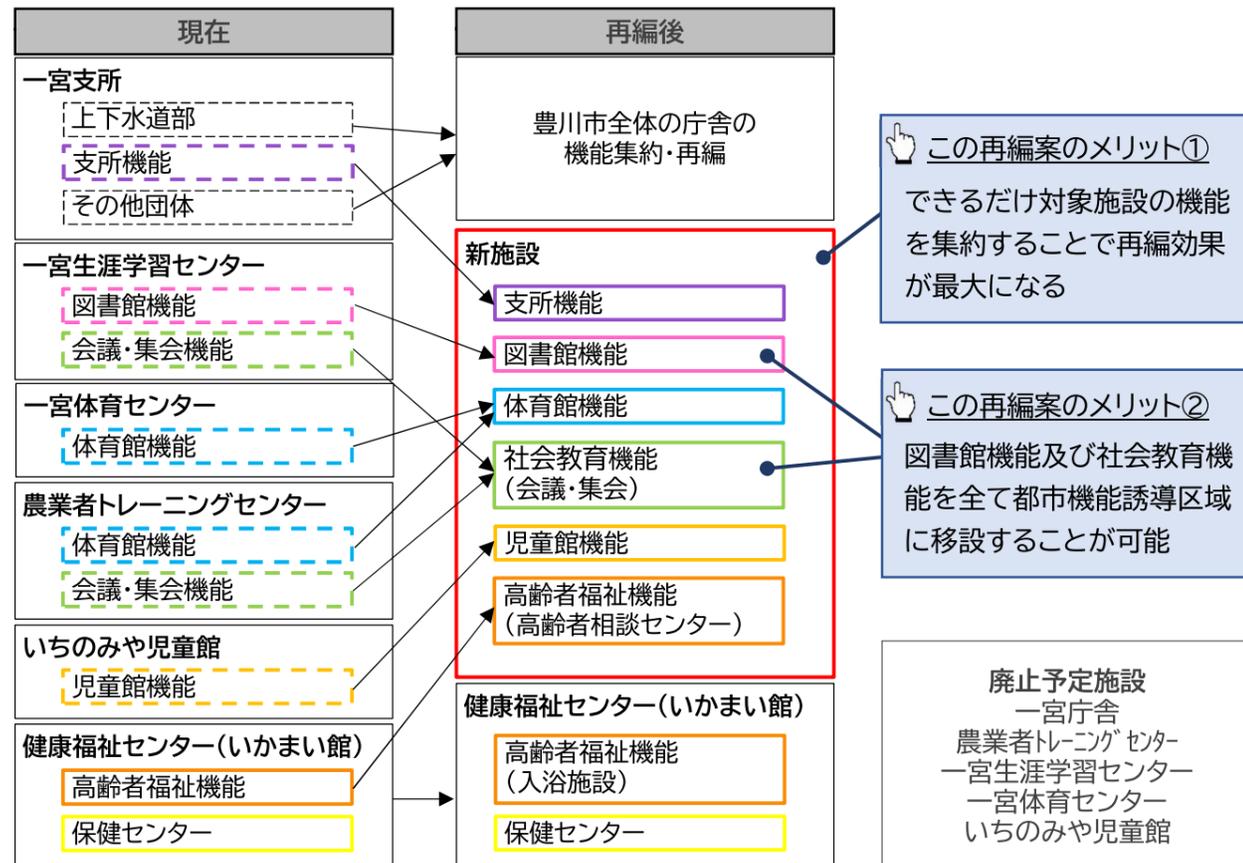
- 保有面積とトータルコストの縮減に寄与する（豊川市公共施設適正配置計画）
- 図書館・生涯学習センターは、都市機能誘導区域への誘導に配慮する（豊川市立地適正化計画）
- 施設の利用率、エリア内で重複する機能、今後の維持や改修にかかる費用などを考慮し、複合化等する施設を検討する（豊川市公共施設適正配置計画）
- SDGs の「11.住み続けられるまちづくりを」に資する取組とする

一宮地区の“地域の活動や多世代交流が促進”されるような拠点を創造するための考え方



再編パターン

複数案を比較検討した結果、下図の再編パターンを基に進めることとしました。



< 今年度の基本計画策定について >

1 基本方針

適正配置計画に掲げる実現を目指す将来像『公共施設の新たな価値の創出“人が集い、市民交流を促す場を創造する”』、令和3年度に策定した一宮地区公共施設再編整備基本構想の『一宮地区の“地域の活動や多世代交流が促進”されるような拠点を創造するための考え方』、及び、ワークショップや住民説明会等で出された意見を踏まえ、以下の通りコンセプトと基本方針を定めます。

【コンセプト(案)】

本宮山のふもとに広がる多世代交流！

【基本方針(案)】

方針1 地域住民の交流や多世代交流によって、一宮地区における特色あるまちづくりを推進できる場

- ◎市が掲げる「(仮称)一宮コミュニティネットワーク構想」の実現に寄与する機能として、地域住民の交流や多世代交流などが醸成されるような場を目指します。
- ◎特に、ワークショップや住民アンケートの結果を参考に、地域住民の声を活かした付加機能を盛り込み、地域のまちづくりに寄与する施設を目指します。

方針2 施設のコンパクト化と効率的な公共サービスの提供と併せ、新たな価値を提供する場

- ◎公共施設の再編による施設の集約化、コンパクト化によって、従来の公共サービスを低下させることなく、財政負担の少ない効率的な公共サービスの提供を目指します。
- ◎豊川市公共施設適正配置計画のコンセプト「公共施設の新たな価値の創出“人が集い、市民交流を促す場を創造する”」に即し、新たな価値や魅力の創造に寄与する施設を目指します。

方針3 安全安心で人にやさしく快適に利用できる場

- ◎本格的な少子・高齢社会の時代を迎え、公共施設の整備においても、より質の高い機能を備えた施設を目指すことが必要であり、特に、ユニバーサルデザインの視点にたち、人にやさしく快適に利用できるような施設を目指します。
- ◎耐震性に優れた安全安心な施設を目指します。
- ◎防災拠点として整備し、市民にとって安全・安心のよりどころとなる災害に強い施設を目指します。

方針4 循環型社会に対応した環境にやさしい場

- ◎省エネルギー、環境負荷の低減を図り、低炭素社会・脱炭素化を推進していく施設を目指します。
- ◎計画地周辺の地域環境・自然環境と調和し、建物内外の関連性に配慮した施設を目指します。
- ◎財政負担の軽減や地球環境への配慮から、建物の保全に努め長期的に使用することのできる施設を目指します。

2 施設計画の考え方

・全体配置・建物ゾーニング

施設の配置・ゾーニング、既存機能継続性、設計の自由度などの観点から比較検討を行い、敷地北側に「複合施設」と「体育施設」を配置する案として整理しました。

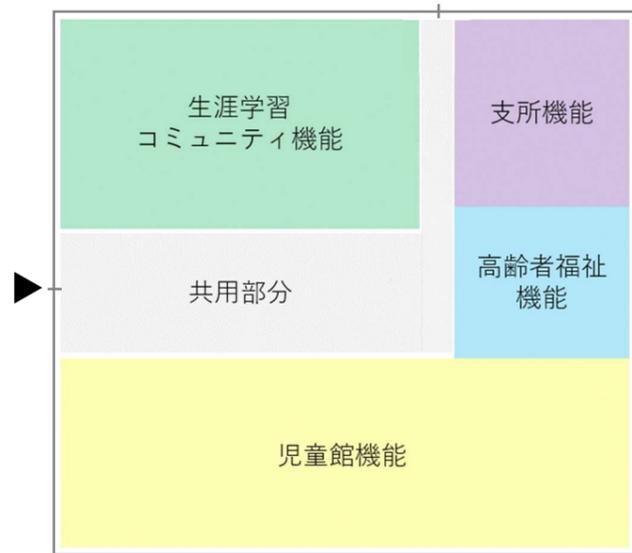
【全体配置案】



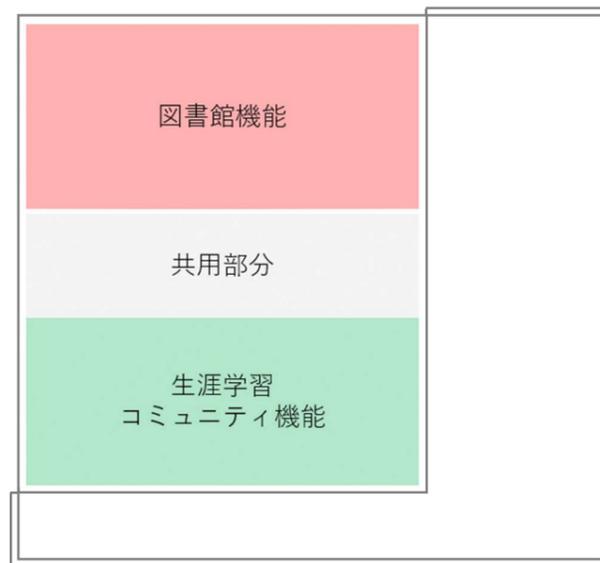
【体育施設ゾーニング(案)】



【複合施設(1階)ゾーニング(案)】



【複合施設(2階)ゾーニング(案)】



※本ゾーニングは、主な機能を具体的に配置するためのイメージで、この案を確定するものではありません。また、建築基準法、消防法等関係法令等に準じて変わることがあります。

3 事業化計画

・事業スケジュール

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
基本計画策定	→						
基本設計		→					
敷地測量・ボーリング調査		→					
実施設計			→				
解体工事				→	→	→	→
複合施設(庁舎等)整備				→	→		
体育施設整備						→	→
外構工事							→